

G A I A社長

中桐 啓貴氏



なかぎり・ひろき 1997年甲南大経営卒、山一証券入社。メリルリンチ日本証券を経て、米国でMBA（経営学修士号）取得。2006年にIFA法人であるG A I Aを設立。20年4月より日本金融商品仲介業協会の理事長も務める。

——新NISAが2年近くになりました。

「資産形成層を中心に、積み立て投資の定着が進んだと感じる。リーマン・ショック時などかつては相場が荒れると『投資をやめたい』といった問い合わせがあったが、2024年夏に株価が急落した場面ではそうした声がほぼなかった。値動きに動じず長期で積み立てるのが大事という認識が広がってきている」

「一方で中高年の資産活用層へのアプローチは今後の課題だ。リタイア後の生活に漠然とした不安を抱えている人は多い。許容できるリスクの範囲で運用しつつ、どのように取り崩して消費などに回していくか。しっかりプランニングして資産の推移を見える化すれば、どれだけ自分の楽しみに使えるかなどが分かり、人生をより充実させることができる」

## 運用不安、見える化で解消

——インフレも続いています。

「インフレで運用への意識が高まっているのは間違いない。投資のことをきちんと理解していないと、生活が成り立たない社会になってきた。物価高の勢いが預金金利の上昇や賃金上昇を上回る状況にあり、これまで投資をしてこなかった人も無関心ではいられないだろう」

——IFA（独立系金融アドバイザー）の役割は何ですか。

「今後は一定以上の資産をもつ個人が増えていく。ポートフォリオの見直しや取り崩しを考える際に、プロのアドバイザーへのニーズは拡大する。金融業界で長く働いた人でも自分の運用の見直しやリタイア後の生活に迷ってプロの助言を必要とするケースは多い。信頼できるアドバイザーの普及に力を入れたい」

掲載日 2025年10月03日 日本経済新聞 朝刊 021ページ © 日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。

許諾番号30105779-1 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。